

脳神経外科

当該診療科の特長	神戸北部の急性期中核病院として脳神経外科疾患全般に対して診療体制を敷いている。当院脳神経外科の治療対象の疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、脊髄疾患、外傷、脳機能的疾患などですが、脳血管障害が多く割合を占める。近年進歩の著しい画像診断装置（マルチスライスCT、三次元DSA、拡散強調MRIなど）を導入し、24時間体制で脳卒中急性期の診断治療にあたっている。当施設は日本脳卒中学会より一次脳卒中センター（コア施設）の認定を受けている。	
プログラムの特長	脳卒中発症を予防する外科的治療、たとえば頸動脈狭窄に対する頸動脈内膜剥離術／ステント留置術や脳動脈瘤に対するクリッピング術／コイル塞栓術にも力を入れています。スタッフに脳血管内治療専門医・指導医がおり脳血管障害の外科的治療にあたっては観血的直達術とカテーテルによる血管内治療の利点を生かし患者にとって良い結果がでるよう選択しています。また、最近、先進的医療機器の一つである「ニューロナビゲーション装置」を導入し、脳深部の腫瘍などに対してもより精確で安全な手術が行えるようになっていきます。また、専攻医の教育としては新たな機器とくに血管内手術機器のハンズオンの実施やマイクロサージェリーの訓練のために顕微鏡の臨床機をスキルラボに備えており、何時でもマイクロサージェリーの練習が可能であることも一般病院としては充実している。	
到達目標	<p>【1年目の行動目標】</p> 救急・病棟処置、脳神経外科疾患の診断、脳血管撮影、穿頭術、開頭術の基礎、脳血管内手術の助手 <p>【2年目の行動目標】</p> 開頭術一般、V-Pシャント術、外傷・脳内血腫の手術、マイクロサージェリーの助手、スキルラボに備えてある顕微鏡でバイパスの練習を開始する、脳血管内手術の助手 <p>【3年目の行動目標】</p> 頭蓋底手技を含む開頭術、マイクロサージェリー（症例により術者）、脳血管内手術（症例により術者）	
研修期間	3年間	
取得可能な資格等	学会名	取得可能な資格
	日本脳神経外科学会	日本脳神経外科学会専門医
	日本脳卒中学会	日本脳卒中学会専門医
	日本脳神経血管内治療学会	日本脳神経血管内治療学会専門医
指導体制	3名	
その他	京都府立医科大学脳神経外科のプログラムとして専攻医を受け入れている。	